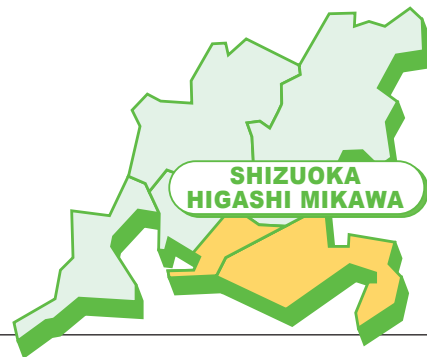


# 中部 だより



中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。

## 「花祭」をきっかけとした奥三河・東栄町の地域活性化

“テホヘ、テホヘ♪”愛知県奥三河、北設楽郡(東栄町、設楽町、豊根村)では、毎年11月から翌年3月にかけて、独特のお囃子が発せられる奇祭「花祭」が行われている。本特集では、花祭をきっかけとした東栄町における地域活性化に向けた取り組みについて紹介する。

### 東栄町の概況



愛知県の北東部に位置する北設楽郡東栄町の人口は、東栄町が合併により成立した1955年の約1万1,500人から減少を続け、2018年8月時点では3,229人まで減少した。さらに、推計では2025年には2,700人と、1990年から半減する見通しとなっている。また、主要産業の一つである林業についても、優良な三河杉の産地としてその名を馳せてきたが、木材市況の低迷が続き、林業界に以前のような輝きは見られなくなっている。人口減少、主要産業の衰退により財政基盤も脆弱となっており、日本各地の中山間地域と同様に中長期的には地域の存続自体が危ぶまれる状況にある。

### 花祭

花祭は、東栄町をはじめとする北設楽郡で毎年11月から翌年3月にかけて行われる。「冬至」の前後、太陽の力の復活を願って行われる「霜月神楽」の一種とされるこの祭りは、鎌倉時代末期から

室町時代にかけて、熊野の山伏や加賀白山の聖によってこの地にもたらされたといわれており、天竜川水系において700年以上にわたって継承されている神事芸能だ。地区ごとにその形態は一様ではないが、神事と舞から成り、基本的には祭場を清めて神々を迎える「神寄せ」、祓い清めた釜で滝の水を沸かし、聖なる湯を献じる「湯立て」、諸々の願いを奉じる「立願の舞」、舞の後で神々を天空に返す「神返し」の流れとなる。八百万の神々を勧請し、諸願成就、厄難除け、生まれ清まりを祈願するこの祭りは、1976年に国の重要無形民俗文化財に指定され、北設楽郡内15カ所の地区で盛大に開催されている。また、現在では進学や就職で転出した若者が祭りにあわせて帰省し祭りに参加することで、地域の結びつきを維持する大事な行事となっている。



花祭の様子

### 花祭をきっかけとした地域の活性化

この花祭に魅せられて移住する人も多くいる。東栄町観光まちづくり協会の大岡千紘さんはその一人だ。和歌山県出身の大岡さんは、学生時代に

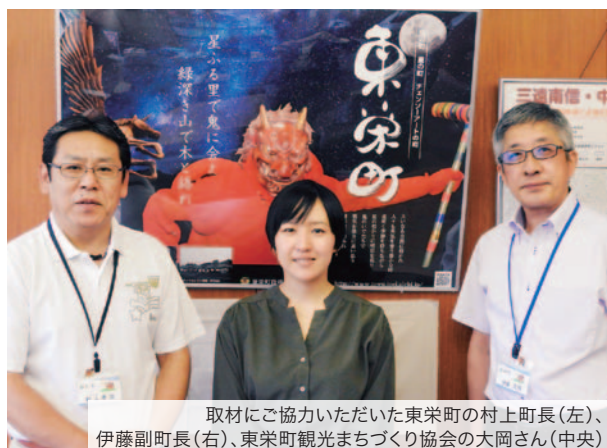
日本各地の祭りを見て回る中、花祭の存在を知り足を運んだ。「祭り自体の神秘性、魅力はもとより住民の温かさや自然豊かな東栄町そのものに惹かれ、いつか住んでみたいと思った」。その矢先、東栄町が総務省の「地域おこし協力隊」制度を活用し、隊員を募集していることを知り応募、採用され東栄町に移り住んだ。隊員は地域資源を活用した特産品の開発や既存施設の活用手法の開発をミッションとしている。大岡さんは、日本では東栄町で唯一採掘される「セリサイト」に着目し、これを活用した商品化を模索した。セリサイトとは、ファンデーションの原料となる鉱物だ。東栄町で採掘されるセリサイトは、品質の高さから“奇跡のパウダー”とも呼ばれ、世界の名だたるコスメティックブ



naori手づくりコスメティック体験の様子

ランドのファンデーショ原料として使用されている。大岡さんは、廃校した校舎で、セリサイトを利用した手づくりコスメティック体

験「naoriなおり」を商品化、協力隊を卒業後は、東栄町観光まちづくり協会職員として地域振興に尽力している。大岡さんは、「美をテーマにしたビューティーツーリズムnaoriは東栄町オリジナルの着地型観光商品。PRのために全国各地を回るが、あくまでも東栄町に来訪してもらうことにこだわっている」と話す。東栄町の伊藤副町長は、「人口動態は社会増がプラスになる年もあり、人が人を呼び込む良い流れができつつある」と言う。事実、東栄町には、大岡さんの他にも、国内外から移住



取材にご協力いただいた東栄町の村上町長(左)、伊藤副町長(右)、東栄町観光まちづくり協会の大岡さん(中央)

し、ゲストハウスやレストラン、パン屋などを起業する人や、三遠南信自動車道で浜松や豊橋、遠くは岡崎まで通勤する人も出てきているという。

## 課題は生活基盤の維持

交流から移住、定住へとつなげていくためには、「田舎で生活をはじめるとは、第一は住むところ」という考えのもと、基本的な生活基盤の整備が欠かせない。東栄町では生活の基盤を表す“衣・食・住”という言葉に“居・職・充”と改め、移住に必要な住まいに関する冊子の作製や補助金制度を整備するとともに、公営住宅の充実にも力を注いでいる。また、北設楽郡2町1村による乗り合いバスの共同運行、テレビ視聴および高速ネット環境構築のための光ファイバー網の整備、医療、教育などの整備支援を推し進めている。

## 魅力発信がカギ

少子高齢化・過疎化が進む中、東栄町は「キラリと輝く自立を育む 交流創造の郷」を目指し、「交流から定住へ」をキーワードに種々の取り組みを行っている。花祭の他にも、夜空に輝く満天の星、ホテルや「清流めぐり利き鮎会」でグランプリを受賞した鮎など、数多くの地域資源を有している。これらの魅力情報を発信し、観光をきっかけとした移住の促進を行っていく、中長期的には、新たな住民と



ともに農林業など主要産業の再生をはじめ、地域のさまざまな課題を共有し、解決に向けた取り組みを行うことが今後のカギになるものと考えている。中経連としても、東栄町をはじめとした奥三河の取り組みに注目し、知名度向上に向けた魅力の発信に積極的に協力していきたい。

文：静岡・東三河担当 鈴木 裕彦

取材協力：東栄町役場、東栄町観光まちづくり協会